

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19年 11月 19日
事業所名	元町グループホーム：つつじの家
事業所番号	239200010
記入者名	職名 施設長 氏名 安形昭広
連絡先電話番号	(0532)26-1125

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人の人生が輝くように」という理念の基に地域社会とのつながりを大切に、地域行事などには積極的に参加している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者には、これからの人生を少しでも穏やかに楽しく笑顔で過ごして頂けるよう、意見を出し合い生活ケアに取り組んでいる。共有できていない職員もいる。	全職員が理念を共有し、団結してチームケアに努める必要があるためミーティングを重ねていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念が載ったパンフレットは各家族や地域にも渡しているが、取り組みは特にしていない。運営推進会議の場で説明させて頂いたが、それ以外では特に理解を求める取り組みはしていない。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所など入居者と散歩に出かけた際は積極的に挨拶をしている。以前、隣の方が草刈りを手伝って下さった。	気軽に立ち寄ってもらえよう、付き合いを増やしていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通し、地域（校区）の行事の日程を伺い、積極的に祭りあ運動会に参加している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話の場はもてても、地域の高齢者等の暮らしまでの話は職員で話し合ったことはない。		ホーム以外の高齢者の話も取り入れていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	中には自己評価という言葉自体を知らない職員もいる。		評価する必要性を伝え、改善点など話し合っていく。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一回の運営推進会議では活動報告を写真を使って分かりやすく説明し、困っている点などを伝え、助言を頂いている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告書などを持っていく場合以外は特に行き来してはいない。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	隣の同法人病院は定期的に勉強会を開いているが、ホームとしては勉強会は行ってない。		勉強会への参加を職員に促していきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の資料は事務室に置いて、いつでも読めるようにはなっているが、勉強会のようなことはしていない。		職員会議でも取り上げてみたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明のあとに疑問点など伺っているし、入居後も気軽に聞いて頂くよう伝えている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部者へ表せる機会にはないが、中には不満・苦情を伝えに事務室へ来られる方もいる。</p>	<p>入居者の意見を受け止め、ケアに努めたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホーム便り内に、現在の状態や日常の様子を書く欄を作り書き込んでいる。急変時はすぐに連絡先となっている人に電話報告をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部者へ伝えるものではないが、法人理事長宛に届く、意見箱は玄関先受付に設置してある。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議では運営に関する意見や提案などは話にてしていない。</p>	<p>日常のケアに関しての話し合いはもちろん重要だが、これからは運営に関しても意見を聞けるようにしていく。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事などがある日には職員が十分に動けるように調整している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットで平屋のため、ユニット担当職員でなくても日頃から顔を合わせているためホーム内で職員が異動してもダメージはほぼないと思われる。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修には参加して頂くようにしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知り合いの同業者の方には、運営上で分からない点や疑問点を伝えアドバイスを頂くようにしている。		市内の各グループホーム施設長と集まる機会が持ちサービスの質の向上に繋げたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休みは極力希望通りにシフトを組み、仕事の疲れをとってもらおう。		職員交流として食事会やカラオケなどの機会を増やしたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況は把握しているが、向上心を持って頂くための働きかけはしていない。		業務の流れの中で、向上心の持てる様な雰囲気をつくっていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居後はゆっくり話も聞けるが、入居前の段階では面会時の少しの間でしか話をしていない。</p>	<p>入居前にもっと時間をとって不安等の聴く機会をつくっていききたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には出来る限り聞き出し、不安感の軽減を図っている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けホームが満床状態であれば、同法人の老健を紹介したり、空所と分かっているグループホームがあれば、そちらも紹介させて頂いている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にはどういった所に移るかは伝えるが、それ以外は特にサービス前に馴染めるように働きかけはしていない。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>寄り添い話を聞き、共に怒ったり共に悲しんだりすることで、安心されることもあるため、出来る限り寄り添っている。</p>	<p>今以上に、一人ひとりの要望や訴えを親身になって受け止められるような信頼関係を築けるよう努めたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	最近の状態などを伝え、以前はどうしてたかとか、アドバイスを頂きながらケアに努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会などの機会を設け、一緒に食事を摂る場をつくっている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具や食器などは、なるべく持ち込んで頂いき落ち着いて過ごせれるようにしている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が話していれば良いが、黙ったままだとか、言い争いになっている場合には職員が間に入って、コミュニケーションを図るようにしている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後は特に連絡等はとっていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>希望や意向に添えるよう、訴えには注意を払っているが、暮らしに関してあまりにも無理だと思われる要件には、その旨を伝えるようにしている。</p>	<p>今現在できていない要求などがあれば、希望に添いできることを増やしていく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前には生活歴等は家族より聞き、問題点などあればどういったケアで対応していたかを伺う。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>介護記録として、一日通して変わった点や気になる点、他食事量や排泄状態を見てすぐに把握出来るようにしている。</p>	<p>身体面の記録だけではなく、精神面（表情・話し方・仕草など）の記録を細かく記し、どういった時にどのように対応したら良いのかを把握できるよう努める。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員間ではケアプランについて話し合いはしているが、家族にはできあがったプランにサインをしてもらうのみである。</p>	<p>入居時に要望は聞いているが、ケアプランに関する話し合いは家族とはしていないため、職員のみならず家族も含めた話し合いをしたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプラのモニタリングをする必要があるが、今現在できていない。</p>	<p>個々のモニタリングの必要性を伝え、実行していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外に、気づきや注意点などの申し送りはノートを使い共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのみでショートなどを含めた多機能型ではない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員の民生委員や老人クラブ会長や地区総代の方々には協力（特に徘徊のこと）を伝えてはいるが、警察や消防には参加して頂いていない。		その他の機関の方々にも何かの時に協力を得られるように、推進会議等への参加を促したい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者が他のサービス利用をしたいという意向があればケアマネジャーへ伝えることもするだろうが、今のところそのような意向はない。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議へ参加して頂いており、助言・アドバイスを頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の病院の月1回の定期受診と、希望があれば本人のかかりつけの歯科・眼科などにも受診介助している。又、年に1回入居者の誕生日には、心電図やレントゲン等の健診も行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医はいないため、認知症に関する治療は受けていない。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接の外来看護師には、何かあるとすぐに報告し指示を仰いでいる。又、一日に一度はホームの様子を見に来て下さる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	すぐか時間が掛かりそうかは、Drに伺いながら調整している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前の段階でターミナルケアについては話をし、書類を渡している。繰り返し話し合っていない。		とても重要な事なので話す機会を増やしたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	食事が摂れず点滴等が必要になった場合には、病院への入院も検討し、すぐに対応できるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>介護記録や看護サマリーを用いて情報提供している。</p>		<p>環境の変化で不穏になりやすいが、十分に情報を伝えて極力ダメージを防ぎたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>声掛けひとつで不穏になることもあるので十分にきをつけている。しかし、慣れが出てくると、声掛けも雑になる場面がある。</p>		<p>入居者一人ひとりの性格もプライドも違うが、誰に対しても尊いの気持ちを持った対応の大切さを考え、徹底したい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>自己決定を促した声掛けしているが、理解力は個々に違い、納得しているかは分からない場合あり。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>一人ひとりのペースを大切にしているが、職員のペースになってしまう場合もある。</p>		<p>極力個々の希望に添えるよう努める。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>本人が美容室に行きたいと言えば連れて行く。現状は特に望む方もいないので、散髪はホーム内に美容師に来てもらっている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは毎週火の昼、金の夕、毎朝は入居者と協力して作っている。それ以外は厨房より届くおかずを分担して盛り付けている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に行った時に欲しいお菓子があれば、立替えて購入し食べ過ぎに注意している。ビールなどは要望があれば提供をしている。		
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録を付け、排泄パターンの確認はしている。		訴えができない方からは表情などから読み取り、不快にならないよう努める。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2～3日に一回は入浴をしており、熱発や皮膚疾患等の状態に応じて回数を増減している。希望があれば極力入って頂く。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は基本的には起きていてもらうが、訴えある場合や体の状態によってはその都度横になって頂く。夜、眠れないとの訴えある場合は無理に横にせず、事務室にて様子をみている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、食事作り、掃除等は分担して手伝って頂いている。楽しみ事は毎月考え、気分転換を図っている。		個々の昔の趣味など増やしていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金はおこずかい程度でと家族にお願いしている。盗られたという訴えが聞かれるため。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日などは声を掛け散歩に出かけるよう促している。もちろん希望があれば極力付き添い出かける。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一泊旅行や外食ツアーなど、全員で出かけている。初めて来た場所などは特に喜ばれる。毎日の買い物は個別で入居者が均等にいけるよう配慮している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば家族へ確認の後、繋いでいる。頻繁に電話の訴えある入居者に関しては、家族の負担も考え、電話相手になりすますといった対応もしている。手紙に関してはやりとりしていない。		年賀状くらいは各入居者に出して頂けるよう支援をする。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会室を使って頂いたり、居室にて過ごして頂く。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろんしていないが、全て職員が行為を正しく理解しているかは分らない。		職員会議で議題にあげてみたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけず、いつでも外に出れる状態である。夜間は危険性も増すため鍵はかける。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は最低職員一人はリビングで全体を把握できるようにし、夜間は一時間に一回の巡視と物音がすれば居室内の確認をしている。		帰宅願望がある方の所在確認遅れがないよう十分気をつける。(特に夕方～)
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁など危険な物は食事作りが済めば保管場所にて保管する。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒はいつでもありえる事故なので、入居者一人ひとりの歩行状態に気をつけている。		生活の中で起こりえるさまざまなリスクを考え、ケアに努める。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	吸引機の説明は職員会議でしたことがあるが、定期的に行ってはいない。		初期対応としての心肺蘇生法や止血等の勉強会も開きたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回の避難訓練はしているが、地域の人への働きかけはしていない。		運営推進会議を通し地域の協力を得られるように、会議の題材にしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクに対しては、その都度起こったことや起こりそうであったことは面会に来られた時などに伝えるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調管理はカルテを見てすぐに分かるようにし、申し送りノートに気をつける点など記入している。対応としては隣接の病院に速やかに受診できている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬内容は個々の記録用紙と一緒にカルテに挟んである。目的や副作用までは理解しきれていない。		投薬に関しての知識を深めるよう薬の一覧表を作成。(薬名は沢山なため、目的別にするなど)
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を怠らないよう心掛けているが、それでも出ない方には服薬コントロールにて排泄を促している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは極力声掛けにて磨いている。義歯は毎週月曜日に就寝前に洗浄剤で浸け置きしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量もカルテを見てすぐに分かるようになってきている。脱水気味の方には特に気をつけて水分摂取を促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防の資料をファイリングした物は事務室に置いてある。インフルエンザ注射以外は特に実行はしていない。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や包丁等は乾燥機を使い予防。手拭きタオルや台拭きはハイターにつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周囲の工夫はしていない。		ホーム周囲も十分気にかけて、環境整備をする。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には花を置いたり、季節物を置いて親しみやすく温か味が出るよう心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファーには2～3人が一緒に座り、話の場になっている。		まだスペースがあるため邪魔にならない大きさで、ゆっくりできそうな物を置きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居前に、本人の生活空間をなるべく崩さなく するためにも使い慣れたタンスなどを持ち込んで 頂くよう伝え、持ってきている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	一日に数時間は窓を開けて換気をしている。冷暖 房は気にかけて温度調節をしている。暖房をつ けている際には加湿器をつけている。脱衣所 にはハロゲン置き、風呂場との温度差に気 をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	段差はなく、つまづく心配はほとんどない。手 すりは浴室にはあるがリビングにはない。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	常に声掛けをしながら、できること・でき ないことを探し、時間がかかっても極力 は自分の力で行うよう促す。失敗して も落ち込まないように声掛けに十分 気をつける。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活 かしている	外には畑が二つあり、昔畑仕事を していた方は進んで水まきをして おり、いきいきとした表情が うかがえる。		花など目で見て楽しめる物を増やし、 水やりなどの役割を持つよう働き かける。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月ごとに外食ツアーや季節を感じれる行事、年に一回の一泊旅行を取り入れ出来る限り入居者が食べたい物を食べれるようコースを考えている。又、入居者家族との輪も大事に考え、バーベキューや餅つき、一泊旅行への参加も呼びかけている。畑仕事の経験のある方が数人いることもあり、アドバイスを頂きながら野菜を育て、収穫の際は隣接の託児所の子供たちと一緒に採る。(前はイモ掘りをした。)子供の顔を見ると入居者の大半はニコニコされ喜ばれる。健康面では隣接する病院外来の看護師のバックサポートのもと、緊急時はもちろん熱発時の対応も早急にでき、Drからの指示を仰げる。